

令和 2 年度使用

# 小学校用教科用図書研究資料

図画工作

宮崎県教育委員会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	<p>(1) 図画工作科の目標を達成するために「自分の考えや感じ方を大切にする表現の追求」をねらい、6年間の系統性を意識した題材が配列されている。簡単なものから複雑なものへと各学年の発達の段階に応じた構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 造形的な創造活動を目指すために、季節及び行事に配慮した題材の配列がなされている。また、一つの題材で身近な材料や身体を使って活動している様子が示されている。児童の実態に応じて活動できるような実践例が示されるなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を育てるために「ぞうけいあそび」「え」「りったい」「こうさく」「かんしょう」の五つの分野で構成されている。各学年に「え」が連続して配列されているところがあり、そこでは、めあてや使う材料が変化し、児童がその変化を楽しみ、興味・関心を高められるような工夫が見られる。</p>
116 日文	<p>(1) 図画工作科の目標を達成するために「かんじる・ためす・つくりだす」をねらい、低・中・高学年の発達の段階に応じた題材が配列されている。6年間を通して同じ材料や用具に繰り返し関わることのできる構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 造形的な創造活動を目指すために、季節及び行事に適した題材で活動を選択できるようにしている。また、学校や児童の実態に応じて活動の仕方を考えられるように、一つの題材で屋内や屋外の活動等、複数の実践例が示されるなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を育てるために「造形遊びをする活動」「絵に表す活動」「立体に表す活動」「工作に表す活動」「かん賞する活動」の五つの分野で構成されている。五つの分野が交互に配列されているため、児童が多様な分野や題材の変化を楽しみ、興味・関心を高められるような工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	<p>(1) 場所や材料から発想したり、感じたり想像したりしたことを進んで表現できるよう、製作のポイントや製作過程を段階的に分かりやすく示し、児童が主体的に造形活動に取り組めるよう工夫されている。また、共同してつくる題材を設定したり、鑑賞活動の特設したりして、対話を通して発想や活動が深まるように構成されており、「主体的・対話的で深い学び」を展開するための工夫が見られる。</p> <p>(2) 仕上がった作品が一目でとらえやすいように、大きめの写真で示し、写真を活用しながら色や形などの造形的な視点の理解につなげる工夫が見られる。また、巻末で、用具の使い方などの説明が詳しく示されており、児童が生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 写真に添えられた文は必要な範囲で示され、完成作品や製作過程の活動の写真が中心に示されている。示された写真を手掛かりにして、児童が自分なりに発想したり構想したりすることを促すことで、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 各題材に、自己評価の視点や、他教科との関連が明示してある。また、「みんなのギャラリー」や5・6年の「つながる造形」では地域の造形活動や創造的な社会イベント、造形作家などが掲載され、「学びに向かう力・人間性等」を育成できるような工夫が見られる。</p>
116 日文	<p>(1) 場所や材料との出会いや、感じたり想像したりしたことを意欲的に表現できるよう、特に発想や構想、製作のヒントを示し、児童が主体的に造形活動に取り組むことができるよう工夫されている。また、児童の表現や活動のよさを肯定的な言葉で支援したり、共同してつくる場面や、鑑賞活動での対話を促し表現活動に広げるようにしたりし、「主体的・対話的で深い学び」を展開するための工夫が見られる。</p> <p>(2) 多様な製作活動の様子が多くの写真で示され、具体的にどのような表現活動をするかが分かり、造形的な視点の理解につなげる工夫が見られる。また、巻末で、用具の使い方などの説明が詳しく示されており、児童が生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 製作過程の多様な活動の写真に添えて、児童の表したい思いや発想の広がりに関する吹き出し、多様な表し方を促す文などが多く示されている。示された写真や文などを手助けとして児童の発想を広げ、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 各題材に、学習したことを、今後の造形活動や日常生活に生かす視点が明示してある。また、「図画工作のつながりひろがり」では各地域の造形イベントや伝統工芸、造形作家などが紹介され、「学びに向かう力・人間性等」を育成できるような工夫が見られる。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	<p>(1) 教科書のページ数を前回より増やし、多様な作品に触れられるようにしながらも、写真や図の重なりを減らし、情報を精選するなど、掲載の仕方を考慮し児童の心に強く訴えようとする工夫が見られる。</p> <p>(2) 表紙には「わくわくするね」などの、発達の段階に応じたテーマが、教科書ごとに計6種類、大きくカラフルで立体感のある文字で書かれている。</p> <p>(3) 巻頭には、今後行う学習内容について、児童の活動の様子を掲載ページとともに示し、どこでどのような活動をするのか一目で分かる工夫がされている。また、学習を進めていく児童へのメッセージや、学習の三つのめあてに対応したキャラクターの紹介が書かれており、教科への興味・関心を高めようとする工夫が見られる。</p> <p>(4) 目次には、各題材が、五つの分野や教科で育てたい三つの資質・能力がどれに該当するのかをアイコンで示してある。また、使用する材料や用具、安全面、片付け、QRコードについての説明があり、一目で分かりやすく、児童が主体的に活動に取り組みやすい工夫が見られる。</p>
116 日文	<p>(1) 教科書のサイズを前回より大きいA4判とし、更にページ数を増やしたことで、全ての題材を見開きで扱い、題材を鮮明にとらえられるようにするなど、児童の心に強く訴えようとする工夫が見られる。</p> <p>(2) 表紙には「たのしいなおもしろいな」などの、発達の段階に応じたテーマが、低・中・高学年ごとに計3種類書かれ、特に、教科名は書体や色が工夫された文字で書かれている。</p> <p>(3) 巻頭には、思わず息をのむような迫力のある作品や各学年で取り扱う学習内容が大きく掲載されている。また、想像力を働かせ、新しい価値を創造してほしいという児童へのメッセージが記述されているとともに、楽しく活動する児童の写真や作品が大きく取り扱われ、教科への興味・関心を高めようとする工夫が見られる。</p> <p>(4) 目次には、各題材が、五つの分野のどれに該当するか、アイコンによってすぐに分かる工夫が見られる。また、用具のマークや、めあての説明、道徳とのつながりを示すキャラクターなどが提示され、一目で分かりやすく、児童が主体的に活動に取り組みやすい工夫が見られる。</p>

【データの観点】

種目 図画工作

※ 表内の数値は、図画工作で設定した内容項目により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的にとらえるのではなく、具体的な内容と合わせて各発行者の特徴をとらえる参考とすること。

視点	発行者		9	1 1 6	
			開隆堂	日本文教出版	
共通	① 総ページ		3 4 8	3 9 8	
	② 重さ		2 1 6	2 4 8	
	③ サイズ	縦 (cm) × 横 (cm)	29.7 × 21.0	29.7 × 21.0	
種目別	④ 題材数		1 2 5	1 3 3	
	⑤ 資料等の数	写真	1 2 9 0	1 4 3 8	
		絵・図表	1 5 1	1 5 6	
	⑥ 材料や用具、技法に関する資料 (ページ数)		2 4	4 8	
	⑦ 造形遊び	題材数	1 6	2 3	
		写真 + 図表	1 6 8 + 1	2 7 7 + 3	
	⑧ 絵、立体、 工作	絵	題材数	4 9	4 4
			写真 + 図表	1 9 6 + 9	2 0 7 + 4
		立体	題材数	1 3	2 6
			写真 + 図表	8 8 + 5	1 6 3 + 4
工作		題材数	4 1	2 8	
		写真 + 図表	2 9 1 + 3 2	2 3 9 + 1 9	
⑨ 鑑賞	題材数	6	1 1		
	写真 + 図表	3 3 + 1	1 2 5 + 5		
⑩ 作品数	児童作品数		5 6 6	5 4 8	
	作家作品数		3 9	6 7	
	参考作品数		1 1 9	7 3	
	外国児童作品		6	6	

- ※ ①総ページ数は、表紙や折り込みも含めた全体のページ（6冊分）
- ※ ②重さは、1冊当たりの重さ
- ※ ③サイズは、1冊のサイズ
- ※ 他の数値は、全ての教科書（各社とも6冊）の合計数
- ※ 写真は大小や形の違いを問わず1枚として計上
- ※ 図表は、まとまりをもって一つとして計上

〔補足説明〕

- 「重さ」において、日本文教出版の「1・2上」は254gである。
  
- 「鑑賞」の題材数は、鑑賞を主なねらいとする題材の数である。
  
- 作品の分類について
  - 1 題のついている作品を「児童作品」とする。
  - 2 題と作家名の記載がある作品を「作家作品」とする。
  - 3 題のない作品は「参考作品」とする。
  - 4 特定の作品ではなく、例を示す作品（民芸品、焼き物、伝統行事に使われる道具など）は「参考作品」とする。
  - 5 外国の児童の作品を「外国児童作品」とする。
  
- 図表はまとまりをもって一つとして計上するが、写真は掲載枚数分を計上する。
  
- 写真は、表内に現れないページ（表紙や裏表紙、目次等）にも掲載されている。
  
- 宮崎県に関する記述は、以下に見られる。
  - ・ 開隆堂 ～ 5・6上 p.49
  - ・ 日本文教出版 ～ 3・4上 p.2      5・6上 p.55